

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100409		
法人名	株式会社 ありが園		
事業所名	グループホーム ありが園	ユニット名	A棟
所在地	〒311-1201 茨城県ひたちなか市阿字ヶ浦187-45		
自己評価作成日	平成26年6月23日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=rue&JigyosyoCd=0872100409-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年8月8日	評価機関 決裁日	平成27年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな観光地の環境に恵まれた家庭的雰囲気の中、理念を活かした支援に基づき、ご本人の役割と生きがいにも繋げられるような生活の場です。
環境を活かした足のリハビリは、海岸までの散歩、心を癒す庭の花壇、食生活では健康的な種類の野菜を作り、楽しみながら味わっております。
地域との輪を広げた活動交流、防災の協力委員体制も整っており、地域に根づいた施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は海水浴場の近くの高台に立地し、近隣には旅館や商店、一般住宅などが立ち並んでいる。
B棟ユニットは東日本大震災の際に倒壊し、現在は事業所から7キロほど離れた民家を借り住まいとしているため不便な面もあるが、利用者は自宅での生活と同じような生活ができるよい面もある。
運営推進会議には地域住民6名と派出所の警察官が出席し、地域の情報や意見、提案が出され、事業所の避難訓練にも地域住民の協力を得るなど、地域との連携を深めている。
職員と利用者は自治会主催の海岸清掃や廃品回収に参加し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流し、利用者が地域とつながりながら生活ができるように支援している。
利用者の希望でドライブに出かけたり、2ヶ月に1度の外食や利用者の誕生日には希望の場所に外出したりしている。
朝と夕方には海へ散歩に出かけたり、広い自家菜園で数種類の野菜を利用者と職員で育て、畑仕事の直後でも時間に制限なく入浴をすることができるなど、利用者が有する能力に応じて利用者本位の日常生活ができるよう支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、自分の持っている能力を引き出し自分らしく生活できる安心への支援	事業所開設時に代表者と管理者や職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関と事務室、各ユニットに掲示するとともに、全職員は理念を名札に入れて携帯している。 管理者は日々のケアや職員会議等で理念に基づいたサービスが実践されているかどうかを確認し、理念を共有して実践につなげているが、事業所開設から13年が経ち、理念が長文のため、見直したいと考えている。	管理者と全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえた理念見直しの計画を実践することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議開催 自治会活動（清掃活動・資源回収・地元小学校交流・商店での買物・散髪・地域祭り参加・ボランティア）	海水浴シーズン前に海岸の清掃をしたり、月2回職員と利用者で町内の資源回収に参加したりして地域住民と日常的に交流をしている。 利用者は事業所の畑の世話をしてくれる近隣住民と一緒に収穫を楽しんでいる。 毎年4月には利用者と職員と一緒に手作りした交通安全のお守りを近くの神社で祈祷後、地域の小学校を訪問して新1年生にプレゼントをしている。 9月には地域の子ども祭りの神輿が立ち寄ったり、小学生の体験学習を受け入れるなど、子ども達と交流する機会も多くある。 年3回大正琴のボランティアが来訪し、利用者は演奏を楽しんでいるほか、近くにある他法人の障害者施設とは草取りを手伝ってもらったり、お互いの行事に招待し合ったりして交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まり、推進会議などを利用し、認知症に対する理解や対応、支援方法などをパンフレットなどで説明し、正しく理解していただけるように活動しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の方々や自治会長・民生委員、利用者とその代表の参加を得て開催し、議事録を作成している。会議では、運営・行事報告と、サービス内容などの意見交換をし、サービス改善・向上に取り組んでいる。	運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、地域包括支援センター職員、派出所の警察官、自治会長、民生委員、地域の旅館や美容室の経営者など、地域住民7名の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 事業所からは利用者の様子や運営状況、行事、職員の研修状況等を報告している。 自治会長から地域の高齢者の実情や、警察官からは地域の犯罪被害状況の説明や、「災害時には指定避難場所の小学校より転作推進センターの方が早く避難が出来るので利用した方がいいのでは」との提案を受け入れるなど、出た提案や意見等をサービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議報告書の提出 毎月利用状況の報告 月1回介護相談員訪問面談	管理者は市担当者が運営推進会議に出席した際や電話で利用者と家族等の困りごとの相談をし、助言を得ている。 介護支援専門員は要介護認定更新時などで書類の提出に市役所を訪問する際には、利用者にも同行してもらい、担当課ばかりではなく関係する課に挨拶をし、事業所の現状を知らせて協力関係を築いている。 事業所の空室状況等は随時担当者と連絡し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ 玄関外に出られることで安心感が得られる利用者様の見守りを、スタッフ全員で行っている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、職員研修を年1回実施して、全職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。 やむを得ず身体拘束をしなければならない場合には、家族等の同意書は備えているが、経過観察記録や再検討記録等の書類を整備するまでには至っていない。 利用者は日中広い庭や畑を自由に出入りしたり、事業所の外に外出する際には職員が同行している。 防犯のため夜間のみ玄関を施錠している。	身体拘束が必要になった場合に備えて、「経過観察記録」や「再検討記録」を備えておくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶ機会を持つ 月1回のスタッフ会議の中でも言葉による虐待について注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学び、成年後見制度の必要性と活用について支援できるか判断を検討している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、時間をとって書面での説明を十分納得頂くまで繰り返しています。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見・要望は受入れ、スタッフ会議の中や毎日の申し送りで検討し、支援に繋げています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。 運営推進会議に利用者と家族等の代表などが出席し、意見や要望が出せる機会はあるが、運営推進会議の結果を家族等全員へ周知するまでには至っていない。 利用者からは日常の問いかけや会話の中から要望を聴き、利用者の思いにそえるよう支援をしている。 家族等の来訪時や電話連絡の際に、意見や要望を聴くように努めているが、運営に反映させるような意見が出されるまでには至っていない。	運営推進会議開催については、一部の家族等だけの連絡でなく、毎月発送する書類などに開催日などを記載して全家族等に知らせ、多くの家族等が出席できるように工夫するとともに、会議内容を欠席した家族等に知らせることを期待する。 家族等が意見や提案を出し易いようにお便りに意見欄を設けたり、無記名のアンケートを実施したりすることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の中や日々の申し送りの中、業務中でも意見の出しやすい環境作りで支援の向上に努めています。	管理者は月1回の職員会議時に、職員の意見や提案を出し易いように日頃からコミュニケーションを図り、自由な意見交換ができるように努めるとともに、年4回職員と個人面談を実施している。 「車いす利用者にはトイレのドアが無い方が良いのでは」との意見を受けてドアを外した結果、今度は「プライバシーが守られないのでは」との意見にカーテンで仕切るなど、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課 各事業所代表会議 スタッフ会議	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修 毎月の内部研修（実技も含む）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修での交流 イベント参加や施設見学 地域推進会議参加依頼と情報交換		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受入れる姿勢に配慮し、不安材料を改善できるよう傾聴に心がける。 環境作りと声かけに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時の希望・相談を受入れ、家族の要望に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を活かしたおためし期間の設定と暫定プラン		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備（野菜の収穫、下ごしらえ、おしぼり作り、テーブル・食器拭き、洗濯干し・取り込み・たたむ、戸締り、カーテン開け閉め）		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月末にお知らせ文を送付、状態や生活状況を見て頂き、変化がある時は連絡体制を取り家族の要望を伺う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との時間を過ごして頂く外出や外泊支援 面会者とのゆったりした時間を過ごして頂けるよう場所を確保する。	利用者の家族等や親戚、知人が来訪した際には、好きな場所でゆっくり話しが出来るように職員は配慮をしている。 ドライブを兼ねながら利用者の元の住まいや馴染みの美容院、墓参りに同行するなど、利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう取り組んでいる。 家族等の申し出で利用者は自宅に外泊したり、家族等と親戚の葬儀に参列したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢も様々で目上の方を敬う姿がみられる挨拶がいつでも確認できる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の情報提供とご家族からの相談・支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時の希望や入所後の要望につきスタッフ間で検討し、結果を本人に伝え説明することで安心、納得して頂いている。	職員はアセスメント等で利用者の生活歴を把握するとともに、日頃の会話や表情などで思いや意向を把握し、利用者が望む暮らしを支援している。 思いを言い表せない利用者に対しては、表情や仕草などを観察したり、家族等に相談したりして利用者の思いを汲み取るよう努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート等を利用したり、本人や家族様から情報を収集し、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の様子、声かけ、会話の中で要望やできることの見極めをする。 支援の継続で現状を維持する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファ、ケアカンファを变化に応じて開き、本人と家族とも話し合い、要望を聞き、介護計画を作成すると共に定期的にモニタリングを行い、現状に応じ見直しています。	ユニット毎に管理者と担当職員、計画作成担当者が参加して毎月カンファレンスを行い、利用者と家族等の意見や要望を取り入れて介護計画を作成している。 毎月モニタリングを実施して短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に見直し、介護計画は1年毎に見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、現状に即した介護計画に見直しをしている。 介護計画書は家族等の訪問の際や訪問の無い家族等には郵送して確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援計画を活かしたケア記録		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた臨機応変に考慮した支援方法		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会活動、理美容院の訪問散髪ボランティア活動の協力 小中学校との交流 警察官の巡回		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の病歴を確認しながら、主治医の意見書と緊急時対応の相談支援。	利用者や家族等が希望する医療機関への受診を支援している。 協力医療機関の医師による訪問診療を月2回支援している。 家族等と受診する場合は、利用者の生活の様子とバイタル表を書面で医師に情報提供し、適切な受診が出来るよう支援をするとともに、家族等が同行できない場合には職員が同行している。 職員が受診に同行した場合は、結果を家族等の来訪時や電話で報告をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックと症状観察の視点を共用し、変化や気づきを看護師に報告。指示を仰ぎ、医療機関につなげる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を保ちながら情報交換やご本人への面会、ご家族と病院関係者相談の退院計画を支援しています。	/	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方はご家族と同意書を交わし、段階ごとに相談して医療関係者との連携を図りながら支援していきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応、応急処置の研修	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、どちらかの1回は必ず消防署立ち会い指導を受けています。定期的な備蓄のチェック、準備をしています。非常時の対応マニュアルを作成・整備。近隣住民の参加・協力体制の働きかけをしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護の研修を受講すると共に人格尊重の大切な言葉かけに注意した支援を心がけています。	職員は利用者に丁寧に話しかけるなど、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。 トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねないように対応しているほか、排泄を失敗してしまった場合は、さり気ない言葉かけでトイレや居室へ誘導をしている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。 利用者の写真の掲示等は家族等から書面で同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の支援の中で表情の違いや返答の様子など、小さな気づきを見落とさず、ご本人の思いに導くよう支援する。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしの個別な支援			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに合わせた身だしなみやおしゃれの支援により全体的な生活の安定につなげています。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、野菜の皮むき、きざみ、味見の手伝いを頂きながら、食事の時間を楽しむ。男性の方々も下膳に協力頂いています。おしぼり作り、テーブル拭きも参加頂き、役割も楽しみ、食への感謝が感謝が感じられます。	職員が献立を作成するため、利用者の希望する行事食を取り入れたり、自家菜園の野菜を食材に利用したりしている。 職員は利用者と一緒に同じ食事を摂り、会話をしながら楽しく食事ができるように支援をしている。 職員と全利用者で2ヶ月に1回外出に出かけ、回転寿司やファミリーレストランで好きな物を食べたり、利用者の誕生日には職員の手作りケーキや利用者の希望で外出に出かけるなど、利用者が食事を楽しめるように支援をしている。 利用者は能力に合わせて下膳やテーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態の検討 食事量、水分量、体重チェック	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後うがいや義歯の手入れの支援	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄パターンをチェックしながらおむつの使用を減らすトイレ誘導を多めに実践 夜間のパット交換支援からポータブル利用に向けた支援	職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うとともに、時間を決めて誘導したり、利用者の様子から声をかけてトイレでの排泄を促している。 職員の適切なトイレ誘導や必要に応じたポータブルトイレ使用で、夜間でも無理なく自立した排泄が出来るように支援してパットの使用量が減るなど、改善につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便、水分チェック 散歩などの運動や腹部マッサージ		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調管理や本人の希望日を聞いたり、畑仕事の手伝いや汗をかいた時など、その時に応じて支援しています。	利用者の体調に配慮しながら、毎日でも希望する時間に入浴ができるよう支援をしており、畑仕事や汗をかいた時など、利用者は自由に入浴をしている。 体調により入浴が出来ない利用者には清拭や足浴、ドライシャンプーで対応している。 入浴を拒む利用者は現在いないが、拒む場合は無理強いせず、職員や時間帯を変えて声かけするなど、工夫をして入浴が出来るよう支援する事としている。 柚子などの柑橘類や菖蒲で季節感を出し、入浴が楽しめるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣や活動に合わせて生活できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理、用法理解し、服薬支援と症状確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした支援からご本人の役割と生きがいに繋がった。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩 レクリエーション 事業所交流	<p>天気の良い日には毎日朝夕に近隣や道路を隔てた海水浴場を散歩するほか、管理者や職員は市役所を訪問する際や食材の購入の際に利用者を同行させ、日常的に外出ができるよう支援をしている。</p> <p>近くの神社の初詣や4月には利用者全員が参加して、お弁当持参で阿字ヶ浦公園に桜を見に出かけたり、市内の桜の名所を回っている。</p> <p>天気の良い日には利用者の希望を聞きながらドライブに出かけるなど、外出の機会を多く設けている。</p> <p>職員が同行できない場合には利用者の希望を家族等に伝え、家族等と一緒に出かけられるように支援をしている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は金銭管理の支援はしていません。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じた支援対応をしています。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自由に移動できるように開放しており、自分の居場所として過ごせます。玄関から自由に出ると庭の草花や畑の野菜で季節感も味わって頂ける環境になっています。	<p>事業所は海水浴場近くの高台にあり、裏手には樹木が多くあるため、居ながらにして季節を感じることができる。</p> <p>職員は室内の温度調節とともに、よしずやすだれを利用して涼しく過ごせるように工夫をしている。</p> <p>事業所内は完全バリアフリーとなっており、壁面には手摺が設置され、利用者の安全に配慮している。</p> <p>靴の着脱が楽にできるよう玄関にソファを配置したり、廊下の窓際にソファとテーブルを配置したりして利用者が1人で寛いだり、訪問客とゆっくり話しができるような空間づくりをして、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大ホール、小ホール、玄関前など移動支援することで気分転換やコミュニケーションを楽しんでいます。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には馴染んだ物品の持ち込みを依頼して、居心地よく過ごして頂けるよう支援をしています。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、お揃いの小型の整理箆笥、チェストが備え付けられている。家族等の協力のもと、利用者が自宅で使い慣れた寝具類や椅子、テレビ、CDラジオ、仏壇など、馴染みの物品を持ち込んでいるほか、家族等の写真やカレンダー、パソコン、時計、ぬり絵などの自分の作品を飾ったり、趣味の俳句集などを持ち込み、これまでと同じような生活ができ、利用者が居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心な歩行移動のため、居室から廊下すべてに手すり設置とトイレ、お風呂にも利用に応じた手すりを設置しています。明るさと空間を意識した吹抜けと大きな窓で開放的な環境になっています。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームありが園

作成日 平成27年2月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所開設から13年が経ち、理念が長文のため見直したい。	理念が長文のため、地域密着型サービスの意義を踏まえたわかりやすい理念に見直したい。	全職員で地域密着型サービスの意義を踏まえたわかりやすい理念に見直し、検討中。	
2	6	身体拘束が必要になった場合に備えて「経過観察記録」や「再検討記録」を備えておくことが望まれる。	緊急時やむを得ず身体拘束をしなければならない場合の経過観察と再検討記録を備える。	緊急時やむを得ず身体拘束をしなければならない場合の「身体拘束説明書・経過観察・再検討記録」を備えた。	1ヶ月
3	10	運営推進会議開催日の出席依頼連絡を順番性にしてお知らせしていた。欠席者への会議内容の周知が出来ていなかった。	運営推進会議開催日を全家族様へ出席依頼して欠席した家族様へ会議内容をお知らせする。	運営推進会議開催日を全家族様へ出席依頼する。欠席した家族様へも会議内容を報告し意見や提案を運営に反映する。	1ヶ月
4	35	夜間想定避難訓練の未実施。備蓄品の見直しとリスト作成。	年2回避難訓練の夜間想定を実施する。備蓄品のリスト作成をし、数量・賞味期限の見直し・管理。	夜間想定避難訓練12/18実施。備蓄品の管理担当によりリスト作成。種類・数量・賞味期限の管理。	4ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。